にじの丘だより

第 85 号
令和 8 年 11 月 9 日発行
瀬戸市立にじの丘小学校
瀬戸市立にじの丘中学校

「失敗」や「無駄」はいけないもの？　～不便さから学ぶもの～

最近は、子どもたちを取り巻く環境が「快適」で「便利」、しかも「効率的」ということが多くて、とても過ごしやすくなってきています。例えば、何かを調べたいと思ったときに、タブレットやスマートフォンなどはとても便利で AI を使えば答えだけでなく、相談にも乗ってくれます。それが当たり前のようになっていて、子どもたちに対して至れり尽くせりの状態になっていることが少なくありません。（時々、平気でまちがいも答えてくれますが･･･）

直接体験したり、じっと観察したり、じっくりと作品を仕上げたりすることが少なくなっているのではと感じることがあります。最近は「コスパ」や「タイパ」といわれるように、その行為に対する効率や対価なども求められることが多いので、やむを得ないことかもしれません。そのため「失敗」や「無駄」などを極端に嫌う子も見受けられます。確かに失敗ばかりしていれば嫌になってきてしまうでしょうし、無駄なことばかりしていれば時間内にできないことも増えてしまいます。でも、「失敗」や「無駄」などは本当にいけないことでしょうか？

一見、「失敗」や「無駄」と思うようなことも、時には次につながる大事な試行錯誤であったり、興味や関心をさらに高める元になったりしていることもあります。例えば、遊びの中で喧嘩をして失敗や痛みから学ぶことがあると思います。確かに喧嘩は、無ければ無いに越したことはありません。多くの子どもたちと過ごす学校生活の中ではトラブルは必ず起こります。トラブルを通して社会性や思いやり、コミュニケーション能力など多くのことを子どもたちは学びます。子どもたちは回り道をしながら、自分なりの方法で、自分なりの答えの見つけ方を試行錯誤しながら学んでいきます。また、歩いて登下校することも成長期の子どもたちにはとても良い影響があるようですし、徒歩での登下校中に季節の植物や動物などに興味をもったり、友達と悩みを語り合ったりなどの経験をお持ちの方も多いはずです。

そのような機会を奪わないためにも、我々大人が、子どもを見守りながら少しの「失敗」や「不便さ」なども寛容する余裕をもって子育てをしていきたいものです。日々忙しく、日常の生活の中でゆとりをもとうと思っても、なかなかもてないものですが、少しだけゆったりする時間や心のゆとりをもつことで子どもたちが学ぶ機会を増やすことにつながり、好奇心をもち続けて成長できる人になると思います。「失敗」や「無駄」、「不便さ」なども大切にしながら、子どもたちの成長を見守っていきましょう。**（にじの丘中　加藤淳）**



10月

にじの丘学園

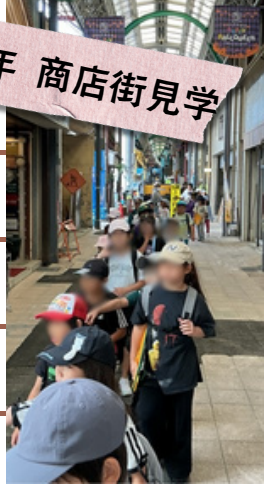
学びの秋



5年 野外活動



8年 職場体験



2年 商店街見学



交流祭



7年 校外学習



6年 異文化交流



そらぐみ・A組
あすなろ交流会



小学校 芸術鑑賞会



3年 商店街見学



2年 おもちゃフェスティバル

PTA

この度は「あいさつ標語」にたくさんのご応募いただきありがとうございました。発表はにじの丘だより12月号以降、順次掲載する予定です。また、来年度のPTA役員選出に関するアンケートをtetoruにて配信しますので、ご回答をよろしくお願いします。



PTA 給食試食会



2年 獣医さんの話